

JESCO PCB 処理事業に係る処理困難物の取組について とりまとめ方針（案）

令和 4 年 5 月 20 日

PCB 処理事業部処理困難物対策チーム

<とりまとめ主旨>

JESCO での PCB 廃棄物処理事業は世界でも類を見ない大規模な化学処理方式によって、全国 5 つの処理施設で処理が行われてきた。

JESCO に処理登録されている PCB 廃棄物の中には、各 PCB 処理事業所の既存設備では処理が難しい廃棄物や特別な対応が必要な廃棄物、さらには現状では保管場所から搬出が困難な廃棄物などが存在しており、PCB 廃棄物処理事業検討委員会技術部会の指導を受け、対応技術や作業時の安全対策等について実証試験により検討を行い、対応を進めてきた。

今般、PCB 廃棄物処理事業が終盤に差し掛かり、処理困難物への対応もほぼ完了したことからこれまでの取組や得られた知見等を整理し、取りまとめることとしたい。

<とりまとめ方針>

（１）大型変圧器等の処理

PCB が使用されている変圧器等の処理については、管理が徹底された PCB 処理施設内で行うことが原則であるが、機器が大型で、寸法・重量等の制約からそのままでは保管事業場からの搬出できない、あるいはトラック等による運搬が困難なもの、または処理施設の受入基準を超えるものなどが存在した。

このため、JESCO では大型変圧器等の保管事業場における作業について、PCB 廃棄物処理事業検討委員会技術部会の指導のもとで実証試験を行い、対応技術、安全対策、実施体制づくりの大きく 3 つの観点で検討し、「大型トランス等に係る現場解体作業について（第三次報告書）（平成 28 年 10 月 PCB 廃棄物処理事業検討委員会）」を作成して保管事業場における作業を支援してきた。

今般、保管事業場での解体作業を要する大型変圧器等の処理が完了したことから、これまで実施してきた取組とその成果を整理し、報告書として取りまとめることとする。

（２）その他の処理困難物の処理

大型変圧器以外にも、JESCO 各処理事業所において処理が困難な下記に示すような PCB 廃棄物が存在する。これらに対しても、大型変圧器等の処理で確立された技術や安全対策を踏襲し、保管事業場における作業方法を確立して処理促進に向けての支援を行ってきた。

その他処理困難物に係る対応についても、保管事業場で作業を実施した際の作業環境測定等のデータも併せて、対応技術、安全対策及び実施体制等に関して、報告書として取りまとめる。

対象物（例）

- ・ 超大型保管容器及びタンク
- ・ 密閉容器保管漏洩変圧器
- ・ その他大型機器

- ・ 処理困難 PCB 油
- ・ コンクリート固化機器
- ・ プラント解体物その他

＜今後の進め方＞

報告書の内容については、技術部会並びに処理事業検討会の意見を伺い、とりまとめに向け令和 4 年度から検討を進めていく。